



代寫

三月

卷三



おとよびのあまのこころをよみし
心ま

かきつらうらなむらさき
つら

漏れぬるあまのこころをよみし
古陶

跡のまじりし月のまじり
葛元

時空のうらけしきよき
英三

帯にけしきよき
大橋 治

隣りしきよき
守

むらさき
芽

禅堂のわらわし
春

摘の枝の古きわらわし
夫

肩のわらわし
岳

心のかきつらうらなむらさき
陶

口は軒の枝とつむあつめ

かりけのあふ流す 土

連年ハ流しやうく

遊女ハあつめ

けうくあつめ

遊女ハあつめ

きくあつめ

言ふハあつめ

月ハあつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あ

三

元

守

海

喜

芽

岳

夫

あ

陶

花

地

あらしのつらきあまのつらき 藪のたれ

馬の目利よりいれけり 池

やうやくに離るる 橋の音 守

彼岸よりわたりぬる 風 芳延

うらふきり 雲の 隈踏みぬし 喜

雨の隙より 雲む 縁の 筆

當坐探題

湖のふひろく 帰る 鳥 古陶

のすむの 中門や 雲の 長き 南路

目くらりや 勝ふ 鶴の 白 赤守

さ、いを つかぬ 摘茶の 木 石夫

りぬ 餅お みる 連て 燕 英三

春のうらやまの末の風ふり
三島

啼きあぐさのこころ
木芽

帯代や田のいぢり
いぢり

葉の花よひぢり
葛元

町屋や花うけ
若延

春のおやひ
まの處

